

中国大学教師管理政策分析

大学教師管理は高等教育管理の中心であり、国家の大学教師管理政策意義は非常に重大である。中国建国以来、形成した特別政治体制と高等教育管理体制は大学教師管理政策に巨大な影響を及ぼした。建国 62 年来大学教師管理政策の歴史変化は五段階である。

第一段階(1949年～1957年): 大学教師管理政策の基礎と調整時期

この段階は中国経済文化の回復、調整と改造時期である。この段階の国家の教育方針は中国人民政府の文化教育仕事は人民文化レベルを引き上げ、国家建設人材を育成し、封建的と買弁的とファシズム思想を肅清し、人民奉仕の思想を主な任務として発展することである①。以上によって、大学教育管理政策の主題を五つの方面に決めた。一つ目は大学教育管理政策と配置実行を中央から統一的指導することである。二つ目は教師個人の政治素質を特別に強調することである。三つ目は大学教師に奉仕管理と職責審査を実行することである。四つ目は教師の教学業務訓練と科学奨励を逐次重視することである。五つ目は《高等学校給料調整規定について》、《中華人民高等学校仕事人員福祉費使用規則の通知について》等を通じて政策文書を絶え間なく調整し、教師の給料待遇を規範し、教師の仕事環境を改善する。これらの具体的政策が実施されているのは深刻な歴史的背景による。建国して三年後、大学の運営思想と教師管理は主に原解放区の管理経験と当時ソ連の模式を参考することを受け継いだ。(これは建国以来中国大学教師管理の最首の基礎である。) 1953年から大規模経済建設の第一五年計画に入って、1956年周恩来“科学へ進軍”という呼びかけを提出し、中国の大学教師政策は教師政治素質を重視した前提で、教師の業務訓練と審査及び教学、科学研究の激励と管理を逐次強化した。

第二段階(1958年～1976年): 大学教師管理政策の曲折変動、停滞混乱時期

この期間に国家のさまざまな政策が始まって、党内の“左翼”の妨害と破壊を受けた。“大躍進”などの政治運動が絶えず、国家教師政策はますます教育と管理規律を由々しく離脱し、“政治はすべてを圧倒する”状態に入った。それで、第一段階に取ったいろいろな教師管理政策は曲折が起こって破壊され、その後悪化して、混乱し、停滞する状態に入った。

1958年から1960年まで、大学教師はずっと頻繁な政治運動、社会活動、生産労働といわゆる科学研究活動に従事していた。1961年、中国中央公布した《教育部直属の高校に暫時施行する仕事条例(草案)の指示を討論と試行するについて》中、教師の教学、科学研究、労働、訓練、審査するなどに再び比較的全面的

な規範が行われ、教師管理の混乱局面を逐次転換させた。ただし、1966年から1976年まで、《文化大改革》が起こって、国家は大学教師の管理を停滞混乱段階に陥れてしまった。1977年の大学教授、副教授の人数を1965年と比べたら、26.23%減少した。

第三段階(1977年～1984年): 大学教師管理政策の混乱をはずめて正常にもどした、回復発展時期

《文化改革》の終結後、党の十一期第三回全体会議で“两个凡是”と“两个估计”の間違った思想が徹底的に批判、ちょうどよい時に混乱をはずめて正常に戻すと言う指導思想を行って、初めて教育を非常に重視するようになった。この間、国家教師管理政策の主題を三つの方面に決めた。一つ目は、混乱をはずめて正常に戻す、教師のあるべき政治と社会地位を確立することである。二つ目は、経験済の有効な教師管理制度を回復し、修訂し、健全にすることである。三つ目は、教学、科学研究中堅教師の激励と育成を初めて行うことである。1984年で教師総数は315021人になった②。このことにより大学教師の仕事条件は好転し、地位と待遇は逐次向上した。だが、大学教師管理は依然として政治の計画枠組みから離脱しなかった。

第四段階(1985年～1998年): 大学教師管理政策改革の実施時期

1985年中国共産党中央委員会から公布した《教育体制改革の決定について》では、“当面の高等教育体制改革で大事なものは、まさに以前国家統一の教育方針と計画の指導下、大学の学校を運営する自主権を広げる、大学の同生産、科学研究と社会、その他各方面の連絡を強化することである。大学を主導に経済と社会発展ニーズの積極性と能力に順応することを備えさせることである。”これは中国の教育管理体制は全面改革段階に入ったことを表している、この段階の教師管理政策の主題を四つ目に決めた。一つ目は逐次市場競争と激励原理を引用し、物質激励を主とする各項政策を採用して、教師の待遇を高めて、教師の教学、科学研究積極性を十分に引き出すことである。二つ目は教師職務の招聘制を重点な人事制度として改革することを初めて正式に押し広めることである。三つ目は立法管理手段を強化し、逐次教師を法律に照らして管理することである。四つ目は教師の業務訓練と教師隊の建設を続いて重要視することである。

これまでの長い間実施された国家の高度な統一の計画型教育管理体制を突破して、市場経済の進展に適応する教師職務招聘制改革を押し広めて順応することである。一定の程度で大学と教師の活力を呼び起こして、教師の教学、科学研究積極性を引き上げて、社会発展能力に教育奉仕を増強した。

第五段階(1999年～今まで) : 大学教師管理政策の深化時期

この時期の教育改革、発展の方向は：“教育はすべき経済、社会発展としっかり結合して現代化建設に各類型人材を提供し、知識を貢献することである”③。この段階の教師管理政策の主題を三つ目に決めた。一つ目は大学人事配置制度改革をもっと深化することである。二つ目は上層の創造性人材

の訓練を重点に支持することである。三つ目は教育くろうと式発展を中心に
して教師隊建設を推し進めることである。

2007年の高等学校の専任教師の人数を1998年と比べたら、287%増加した。
1998年に40.72万人から2007年に116.83万人になった。④

終わりに

現在中国の大学教師管理政策は開放程度不足であり、大学教師管理政策執
行では監督を欠いているし、大学教師管理政策評価は薄弱など問題は存在し
ている。

①国人民政治協議会共同綱領 第41条(1949年9月21日)

②中国教育大事典 刘杰英 浙江教育出版社

③江泽民総書記が北京大学建校百周年を慶祝大会の演説 (1998年5月4日)

④全国教育事業発展統計報告(2008年5月7日)